

平成28年9月9日

京都府知事 山田 啓二 様

京都府スケート連盟 会長 田中 英之



京都府アイスホッケー連盟 会長 岡崎 幸生



## 通年型アイススケート場の整備に係る要望書

平素は、京都府スケート連盟及び京都府アイスホッケー連盟の活動にご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、京都府スケート界の現状であります。かつて1980年代から1990年代の冬季国体においては、スケートの種目別総合成績で通算12回の入賞を果たす強豪として活躍をして参りました。その原動力の一つとして通年型アイススケート場「醍醐スケートリンク（1983年～2005年）京都市伏見区醍醐」の存在が大きく、府民のスケートへの関心、裾野の拡大、競技者の練習場所の確保など、府のスケート振興に非常に大きな役割を果たしていたものと考えております。

「醍醐スケートリンク」存続中は、近郊の伏見区や宇治市から世界選手権や世界ジュニア等の国際大会へ出場する多くの選手を輩出してきたところですが、2005年の同リンクの閉鎖後、選手たちは夏季の練習場所を確保するため、大阪府や滋賀県、遠くは岡山県まで遠征し、多大の経費負担や時間を掛け、競技力の研鑽を重ねて来たところです。そうした中、2016年2月には、大阪府柏原市の「アクアピア・アイスアリーナ（通年型）」が閉鎖され、更には、2017年3月に「守口スポーツプラザVIVAスケート（同型）」の閉鎖が決まるなど、今後ますます、選手たちにとって練習場所の確保や競技会の開催が困難な事態となってくると考えております。また、他府県での練習場所を確保する場合、その府県での選手登録を求められる現状もあり、京都在住の有望な選手が他府県に流出するといったことや、何よりもスケートに親しむ府民が減少するという本府のスケート界にとって危機的な状況になってきております。

つきましては、全国レベルで活躍する本府競技者の練習場所・時間の確保等競技力の向上と、本府の冬季スポーツの振興として広く府民の利用に供する施設である公的な通年型アイススケート場を、これまで多くの有望選手を輩出してきた府南部地域、特に交通のアクセスがよく、また、選手が基礎トレーニング等に使用できる運動施設も充実している府立山城総合運動公園内に整備していただきますよう、要望いたします。